

研究ノート

特別支援学校における知的障害児の性の健康問題に対する養護教諭の取り組みの現状と課題

落 合 賀津子¹⁾ 藤 原 瑞 穂²⁾

1) 北里大学看護学部

2) 横浜創英大学看護学部

I. はじめに

近年、児童生徒を取り巻く家庭環境や社会環境が変化し、性に関する健康問題は深刻化している。その中で、特別支援学校における知的障害児の健康問題としては、性被害・性加害、性機能の発達に伴う問題（性器いじり）等、多様な問題が挙げられる¹。障害の程度によっては、身体的性的機能の発達に比べ精神・社会的発達が未熟であり、危険を回避する能力や自制する能力が乏しく、性に関する事項に対処できないまま生活を送っている児童生徒も多いと考えられる。このような性の健康問題に対し、特別支援学校では集団に対する性教育、児童生徒や保護者に対する個別の健康相談・保健指導を実施している。

特別支援学校における性教育の実施状況については児嶋の全国の学校を対象とした質問紙調査があり、性教育を教育課程に位置付けているのは小学部で3分の1、中学部・高等部では2分の1であり、教育課程に位置付けにくいことが報告されている²。そして、性教育に対する意識や認識に関する質問紙調査では、多くの教諭が性教育の必要性を認識している一方で、適切な性教育の資料・教材が少ない、教え方がわからない、障害の程度による個人差が大きいことから一斉指導が難しい、指導時間の確保が難しい、保護者の理解が得られない等が課題として報告されている^{3,4,5,6}。また、山田は一斉指導が難しいことから日常的な個別指導を補完的に行う必要性や教職員の連携の重要性を述べている⁷。性に関する個別指導や相談に関しては職務の特性や専門性から養護教諭が担うことが多いと考えられる。しかし、養護教諭の個別指導等の対応に関する先行研究は、過去の記録物から知的障害児の健康課題の一つとして、部分的に性の健康課題を分析している研究が2件^{8,9}、性に関する指導上の困難について質的帰納的分析で明らかにしている研究が1件¹⁰と少ない。また、養護教諭が日常の健康観察や応急処置等の保健室対応を行う中で、どのように性の健康問題を把握しているのか、また把握した健康問題に対してどのように対応しているのか、その実態を明らかにしたものは見当たらない。

以上のことから本研究の目的は、首都圏A県公立の特別支援学校養護教諭を対象とした面接調査から知的障害児の性の健康問題に対する養護教諭の取り組みの現状と課題を明らかにすることである。

Ⅱ. 方 法

1. 対 象

面接参加の条件としては、A県立特別支援学校（知的障害部門を含む）の専任養護教諭であり、かつ、養護教諭経験年数が5年以上であることとした。対象を5年以上とした根拠としては、A県教育委員会が「充実期」として示している5年以上経験者の教員像¹¹が、性の健康問題に関する健康相談や保健指導、それに伴う担任や保護者との連携が適切に実施できるという本研究の条件に一致するからである。募集方法としては、研究者の既存の人的ネットワークを活用して条件に見合う候補者を選定するネットワーク抽出法¹²とした。候補者である養護教諭の所属する学校長宛に「面接調査への参加依頼文書」を郵送し同意を得た上で、改めて候補者に研究趣旨を説明し同意を得た。結果、面接参加対象者数は10名となった。

2. 調査方法

2022年7月から2023年8月、個別に半構造的面接を実施した。面接場所は面接参加者の希望する、プライバシーの守られる会議室等で実施した。インタビューガイドを用い、これまでの知的障害児の性に関する問題行動への対応の中で、最も手ごたえがあった事例の概要について「どのように把握し、考え、対応したのか」を尋ねた。面接内容はICレコーダーで録音し逐語録とした。面接時間は1名当たり概ね1時間程度とした。

3. 倫理的配慮

面接対象者ならびに対象者の所属する学校長に対し、研究の目的、方法、研究の参加ならびに中断における個人の自由意思の尊重、個人情報保持、データの使用範囲について文書と口頭により説明し、同意を得た上で実施した。本研究は、北里大学看護学部研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：2021-13）。

4. 質的記述的方法による分析方法

面接内容は、内部者の見方から現実を明らかにすることを目的としている質的記述的方法¹³により分析した。分析方法は以下の手順で行った。

- 1) 録音した面接内容を逐語化する。
- 2) Krippendorffの「メッセージ分析の技法」の中で示されているHolstiの記録単位の定義「内容をある一定のカテゴリーに分類することによって特徴づけられような特定の内容部分」¹⁴を参考に、意味内容を損なわないように文脈または段落ごとに抽出する作業を1事例ごとに行う。
- 3) 全事例の抽出された内容を集め、内容の類似性に従って分類し、抽出化の作業を経てコード化する。
- 4) コードをさらに意味内容の類似性に従って整理分類し、抽象度を高めてサブカテゴリーとする。
- 5) サブカテゴリーは、個々の内容と全サブカテゴリーの中での位置づけ、各カテゴリー

の中での位置づけ、各カテゴリー間の関連性を考慮し、データ分類およびサブカテゴリーネームの妥当性について検討し命名する。

6) サブカテゴリーをさらに高次概念でカテゴリー化し、カテゴリーネームを命名する。

5. 分析の信頼性の確保

分析の信頼性を確保するために、分析については質的研究の経験のある養護教諭1名ならびに面接参加者1名に分析結果の確認を依頼した。

Ⅲ. 結 果

1. 面接対象者

面接対象者10名および事例の概要を表1に示した。対象者の年代は、50代が1名、40代が4名、30代が4名、20代が1名であった。養護教諭経験年数は、5年以上10年未満が3名、10年以上15年未満が3名、15年以上20年未満が3名、35年以上が1名であった。面接時間の平均は44.3分であった。事例の支援を始めた学年は、小学部5年が1名、中等部1年が1名、高等部1年が1名、高等部2年が3名、高等部3年が4名だった。性の健康問題は、性器いじりが2名、月経困難症が2名、性加害が2名、性被害が1名、月経不順が1名、性感染症疑いが1名、月経前症候群が1名であった。

表1 面接対象者および事例の概要

面接対象者			事例	
年代	経験年数（年）	面接時間（分）	支援を始めた学年	性の健康問題
50代	35～40	55	高等部1年	性器いじり
30代	10～15	48	高等部2年	月経困難症
40代	15～20	40	高等部2年	月経困難症
40代	15～20	45	中等部1年	性器いじり
30代	5～10	45	高等部3年	性加害
40代	15～20	40	小学部5年	性被害
40代	10～15	45	高等部3年	月経不順
20代	5～10	40	高等部3年	性感染症疑い
30代	5～10	45	高等部2年	月経前症候群
30代	10～15	40	高等部3年	性加害

2. 「性の健康問題に対する取り組み内容」の面接結果

データ分析の結果95のコードが抽出され、18サブカテゴリー、8カテゴリーに分類された。以下、カテゴリー別にその特徴を記述し、コードは代表的なものを示した。なお、記述に当たっては、カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを< >、コードを“ ”で示す。

1) 【アンテナを張り、開かれた保健室経営を行う】(表2)

このカテゴリーは<担任・保護者からの相談を積極的に受け入れる>、<子どものいつもと違う行動に気づけるようにする>という2つのサブカテゴリー、10コードで構成された。このカテゴリーでは、健康相談・保健指導につながるきっかけが示された。“「不登校気味、登校させたい」と担任から相談。月初めに休むパターンで月経前症候群が疑われたことから、担任から養護教諭もケース会議に入ってくれるよう依頼された”というコードに代表されるように、性の健康問題に対し養護教諭の専門職としての意見を担任から求められていた。また、“お母さん方がPTA等でいらっしゃる時に保健室の扉を開け「最近どうですか？実習で疲れてないですか？」ということから話しかけて少しずつ話をする中で「実は娘が生理不順なんだけど」という話が出た”というコードに示されているように、直接的につながる事が難しい保護者に対し機会を作って積極的に話しかけるという行動を取ったことが相談につながっていた。直接的なアプローチという点では“健康診断の場面でやけに体を隠しすぎるとか、その場にそぐわない行動。その子の障害レベルを考えると理解できるはずなんだけど、なぜそのようなことをしてしまったのか気になったことがきっかけ”、“「障害だから」という見方だけではなく、頭のどこかに「性の関連はないのか」ということを置いていつもと違う行動がないか観察するようにしている”というコードに示されているように、校内巡回や健康診断・救急処置等の場面でアンテナを張り、直接的な観察を通して子どものいつもと違う行動に気づくことが健康相談・保健指導につながっていた。

表2 【アンテナを張り、開かれた保健室経営を行う】のサブカテゴリー、代表的なコード

サブカテゴリー	代表的なコード
担任・保護者からの相談を積極的に受け入れる	「不登校気味、登校させたい」と担任から相談。月初めに休むパターンで月経前症候群が疑われたことから、担任から養護教諭もケース会議に入ってくれるよう依頼された
	お母さん方がPTA等でいらっしゃる時に保健室の扉を開け「最近どうですか？実習で疲れてないですか？」ということから話しかけて少しずつ話をする中で、実は娘が生理不順なんだけどという話が出た
子どものいつもと違う行動に気づけるようにする	健康診断の場面でやけに体を隠しすぎるとか、その子の障害レベルを考えると理解できるはずなんだけど、なぜそのようなことをしてしまったのか気になったことがきっかけ
	「障害だから」という見方だけではなく、頭のどこかに「性の関連はないのか」ということを置いていつもと違う行動がないか観察するようにしている

2)【担任への理解を深め、協働する】(表3)

このカテゴリーは＜担任との関係性を大切にする＞、＜担任のアセスメントをしながら連携する＞、＜担任と情報や見立て、指導方法を共有・相談しながら進める＞という3つのサブカテゴリー、17コードで構成された。このカテゴリーでは、子どもの利益のために担任を理解し関係性を大切にするという養護教諭の取り組みが示された。“保護者からの要望に応えるためには担任と繋がっておくことが本当に大事”というコードのように、直接関わる機会の少ない保護者の要望に応えるために、直接関わる事が出来る担任との繋がりを大切にしていた。また、“担任が一番子ども達の近くにいて一番関わるので、担任の気分を害さないようにうまくやらないといけないかなと。難しいけれど子どものために大事”というコードのように、子どもの利益のために、子どもに一番関わっている担任との関係性を良好にするよう努めていた。さらに、“担任のアセスメントをしている。その人その人に合わせた対応をしないと無理。担任も複数いるので、この件はこっちの先生に話しておこうとか考える”というコードに代表されるように、担任の特徴に合わせた対応をすることで連携がスムーズにできるようにしていた。“こまめに教室に足を運んで子どもの観察をするようにし、担任の見立てが的外れではないのかを確認させてもらった”というように、養護教諭が実際の子どもの観察し、担任と共通の見立てであることを確認していた。また、“担任は個々の生徒の特性を把握しているのでその情報を共有して行った。どんな環境でやればいいのかが大事だと思ったので担任と相談した”というように、子どもの特性を把握している担任に相談しながら、子どもにより良い支援ができるようにしていた。

表3【担任への理解を深め、協働する】のサブカテゴリー、代表的なコード

サブカテゴリー	代表的なコード
担任との関係性を大切にする	保護者からの要望に応えるためには担任と繋がっておくことが本当に大事
	担任が一番子ども達の近くにいて一番関わるので、担任の気分を害さないようにうまくやらないといけないかなと。難しいけれど子どものために大事
担任のアセスメントをしながら連携する	担任の力量によっては思う方向にいかないこともあったり。そのような時は依頼できない場合もあるので、信頼できる他の担任に頼んで対応してもらう
	担任のアセスメントをしている。その人その人に合わせた対応をしないと無理。担任も複数いるので、この件はこっちの先生に話しておこうとか考える
担任と情報や見立て、指導方法を共有・相談しながら進める	こまめに教室に足を運んで子どもの観察をするようにし、担任の見立てが的外れではないのかを確認させてもらった
	担任は個々の生徒の特性を把握しているのでその情報を共有して行った。どんな環境でやればいいのかが大事だと思ったので担任と相談した

3)【保護者のニーズに沿った支援を心掛ける】(表4)

このカテゴリーは＜保護者の性の問題に対する受け止め方を把握する＞、＜保護者が性の問題を受容できるように関わる＞、＜子どもとの関わりを深め、保護者との関係作りにつなげる＞という3つのサブカテゴリー、16コードで構成された。このカテゴリーでは、子どもの性に関する問題に対応するためには保護者の理解が欠かせないという特別支援学校の特徴が反映されていた。“お母さんにはいつまでも子どもでいてほしいという願いがあるんだろうと。性の問題なんかがあると思いたくないんだろうと思った”、“親の性に対する意識の確認。各家庭で性に対する意識や考え方は様々なので、そこを把握し、すり合わせる必要がある”というコードのように、保護者の子どもの二次性徴に関連する願いや意識を理解しようとしていた。保護者の受け止め方を把握し、“自分の価値観を押し付けないように意識的にした。自分で実践してみて感じた事や過去に他のお子さんと成功したことなどを伝えて、押し付けにならないように”というコードのように、保護者が性の問題を受け入れやすくなるために、養護教諭の価値観を押し付けず、受け入れやすい事から始められる方法を提案するというような、保護者を尊重した関わりが示された。また、“子どもの情報をこちらが知らないと話聞いてくれないと思うから、自分から子どもに関わるようにした”、“性の問題だけではなく、子どもの様子を普段からよく見てくれているということがわかると聞く耳を持つてくれるかな”というコードのように、保護者との関係形成に繋げるために子どもと直接的な関わりを多く持てるように努めていた。

表4【保護者のニーズに沿った支援を心掛ける】のサブカテゴリー、代表的なコード

サブカテゴリー	代表的なコード
保護者の性の問題に対する受け止め方を把握する	お母さんにはいつまでも子どもでいてほしいという願いがあるんだろうと。性の問題なんかがあると思いたくないんだろうと思った
	親の性に対する意識の確認。各家庭で性に対する意識や考え方は様々なので、そこを把握し、すり合わせる必要がある
保護者が性の問題を受容できるように関わる	自分の価値観を押し付けないように意識的にした。自分で実践してみて感じた事や過去に他のお子さんと成功したことなどを伝えて、押し付けにならないように
	お母さんが受け入れやすい事から始められるように環境整備をしていくことを伝えた
子どもとの関わりを深め、保護者との関係作りにつなげる	子どもの情報をこちらが知らないと話聞いてくれないと思うから、自分から子どもに関わるようにした
	性の問題だけではなく、子どもの様子を普段からよく見てくれているということがわかると聞く耳を持つてくれるかな

4)【関係者・関係機関が各々の役割を活かして連携し、継続的に支援する】(表5)

このカテゴリーは＜保護者・関係者が継続して指導・支援できるように働きかける＞、

＜各々の専門性を活かした指導・支援ができるように連携する＞という2つのサブカテゴリー、13コードで構成された。このカテゴリーでは、多方面の関係者がそれぞれの役割を活かして連携している実態が示された。“（月経痛に関する記録を）継続して実施してもらう目的で、家庭や担任だけではなくデイサービスのスタッフの方にも共有した”というコードのように、子どもが継続できるように担任や保護者だけではなく、学外機関にも働きかけていることが示された。“心理士さんの対応は、盗撮ってということについてではなく、その子の発達の課題や心理的な課題についてきちんと対応してくれていた”というコードが示すように、性加害の子どもに対し心理士が専門的な立場から介入していた。また、“身体的・精神的な課題なので養護教諭が呼ばれたという感じ。本当に月経前症候群なのかどうかを立証するためのデータを取るために養護教諭が関わった”というコードのように、養護教諭の専門性を活用した校内連携が行われていた。

表5 【関係者・機関が各々の役割を活かして連携し、継続的に支援する】のサブカテゴリー、代表的なコード

サブカテゴリー	代表的なコード
保護者・関係者が継続して指導・支援できるように働きかける	（月経痛に関する記録を）継続して実施してもらう目的で、家庭や担任だけではなくデイサービスのスタッフの方にも共有した
	薬の管理を自立させるという目標を持って、保護者と担任・養護教諭が連携して行うことにした。卒業後のことも考えて家庭と学校とで同じ目標を目指して
各々の専門性を活かした指導・支援ができるように連携する	心理士さんの対応は、盗撮ってということについてではなく、その子の発達の課題や心理的な課題についてきちんと対応してくれていた
	身体的・精神的な課題なので養護教諭が呼ばれたという感じ。本当に月経前症候群なのかどうかを立証するためのデータを取るために養護教諭が関わった

5) 【性の問題と関連する課題に対応する】(表6)

このカテゴリーは＜性の問題にフォーカスし過ぎず、関連する生活上の課題にアプローチする＞、＜性の問題に関連する背景をアセスメントする＞という2つのサブカテゴリー、13コードで構成された。このカテゴリーでは、性の問題に関連する生活上の課題や背景に対応している実態が示された。“性器いじりにフォーカスするのではなく、生活の中で改善できること、環境を整えること、成長していけることで、お母さん自身も少しずつマスターベーションの事を考えられるようになったかと思う”というように、どのような刺激によって性器いじりが起こるのかの行動を分析した上で、関連する生活上の課題への対応や環境調整から支援を始めていた。“生理になると極端に具合が悪くなって重病人みたいに振舞う。医療機関に繋ぐようなケースなのかなと思って関わり始めたんだけど、親御さんが自分のことに無関心ということで、生理を利用して自分の気持ちを親に伝えたかった

みたい”というように、性の問題に関連すると考えられる保護者との関係性をアセスメントした上で対応していた。

表6【性の問題と関連する課題に対応する】のサブカテゴリー、代表的なコード

サブカテゴリー	代表的なコード
性の問題にフォーカスし過ぎず、関連する生活上の課題にアプローチする	性器いじりにフォーカスするのではなく、生活の中で改善できること、環境を整えること、成長していけることで、お母さん自身も少しずつマスターベーションの事を考えられるようになったかと思う
	加害行為だけ問題にするのではなく、生活の中で、相手の気持ちを考えることを繰り返し伝えることを話した。さらに問題を起こさないように環境を整えた
性の問題に関連する背景をアセスメントする	生理になると極端に具合が悪くなって重病人みたいに振舞う。医療機関に繋ぐようなケースなのかなと思って関わり始めたんだけど、親御さんが自分のことに無関心ということで、生理を利用して自分の気持ちを親に伝えたかったみたい
	家庭環境的に難しかった。お母さんは継母。家庭的に背景が複雑。親の協力が得られないため、受診を勧めることが難しかった

6)【知的レベルや特性に合わせた解決方法を模索する】(表7)

このカテゴリーは<知的レベルや特性を把握し問題行動の対処方法を考える>、<知的レベルや特性に合わせた指導方法を工夫する>という2つのサブカテゴリー、12コードで構成された。“観察しているとイライラすると性器に手がいく。教材がたくさんあって、その課題をやっていればイライラしないということがわかったので継続した”、“視覚情報が優位なので、この子は動画がはまった”というように、知的レベルや特性に合わせた対処や指導を行っていた。

表7【知的レベルや特性に合わせた解決方法を模索する】のサブカテゴリー、代表的なコード

サブカテゴリー	代表的なコード
知的レベルや特性を把握し問題行動の対処方法を考える	観察しているとイライラすると性器に手がいく。教材がたくさんあって、その課題をやっていればイライラしないということがわかったので継続した
	性器に触ろうとした時に「今じゃないよ」「ここじゃなくしようね」と声がけをするようにした。どうしても我慢できない時は、トイレに連れていくという対応をしていた。知的レベルはA2なので、その都度繰り返し対応した
知的レベルや特性に合わせた指導方法を工夫する	(記録の際)言葉で表現したりすることが面倒で続かないと困るので、痛みの表情スケールや気持ちの表情スケールを用いて簡単に表現できる工夫をした
	視覚情報が優位なので、この子は動画がはまった

7) 【集団の保健指導と個別の保健指導を繋げる】(表8)

このカテゴリーは＜集団の保健指導を個別の保健指導に繋げる＞、＜個別の保健指導を集団の保健指導に繋げる＞という2つのサブカテゴリー、12コードで構成された。“集団指導でもやっている範囲ではあったのだけれど、より具体的に話をした”、“PTAの主催で、性のことに関する困り感を共有する目的で心と身体の座談会を開催し、養護教諭である自分が講師で呼ばれた。その後、参加していたお母さんが性の事で悩んでいて保健室に来た”というように、担任が実施している授業の内容をより具体的な指導内容としたということに加え、養護教諭が実施した集団指導がきっかけとなって個別の相談に繋がっていたことが示された。“この子のことがあってから包括的に系統立てて指導した方がいいよねと学部長から話があった。学部長が中心となって各学年チーフなどの主要メンバーが集まって、系統的に性教育をしていこうという方向で動いた”というように、個別の性加害行動への指導がきっかけとなり、学校全体で問題意識が共有されることで系統的な性教育に発展させることができていた。

表8 【集団の保健指導と個別の保健指導を繋げる】のサブカテゴリー、代表的なコード

サブカテゴリー	代表的なコード
集団の保健指導を 個別の保健指導に 繋げる	集団指導でもやっている範囲ではあったのだけれど、より具体的に話をした
	PTAの主催で、性のことに関する困り感を共有する目的で心と身体の座談会を開催し、養護教諭である自分が講師で呼ばれた。その後、参加していたお母さんが性の事で悩んでいて保健室に来た
個別の保健指導を 集団の保健指導に 繋げる	この子のことがあってから包括的に系統立てて指導した方がいいよねと学部長から話があった。学部長が中心となって各学年チーフなどの主要メンバーが集まって、系統的に性教育をしていこうという方向で動いた
	その子だけがやるのではなく、同じクラスの女子も表を付けることにした。その理由としては、当該生徒だけでなく女性として自分の健康管理が必要だということをわかってもらう必要もあったから

8) 【指導・支援の結果が把握しづらいことによる取り組みの困難さがある】(表9)

このカテゴリーは＜指導・支援の結果の情報が担任から入らないことで評価が難しい＞、＜指導・支援の結果がわからないことで達成感が得られない＞という2つのサブカテゴリー、7コードで構成された。“本当は振り返りが必要ですね。先生によっては、こちらが関わった後にこまめに報告してくれる人もいるけど。人によって全く報告がない場合がある。言ってきそうもない先生にはこちらから聞きにいかないといけない”、“一緒に関わっても、問題なければ何にも報告がないので。それはそれでいいのかなと思うけど。一生懸命やったけどやった感がない”というように、中心的に継続して指導・支援を行っている担任からの結果に関する情報が入りづらく、評価ができないだけでなく、達成感が持てないという不全感が示された。

表9【指導・支援の結果が把握しづらいことによる取り組みの困難さがある】のサブカテゴリー、代表的なコード

サブカテゴリー	代表的なコード
指導・支援の結果の情報が担任から入らないことで評価が難しい	保健室から確認しないと、指導後の様子については担任から報告されることはないかな。評価が難しい。のど元過ぎればじゃないですけど
	本当は振り返りが必要ですね。先生によっては、こちらが関わった後にこまめに報告してくれる人もいるけど。人によって全く報告がない場合ある。言ってきそうもない先生にはこちらから聞きにいかないといけない
指導・支援の結果がわからないことで達成感が得られない	一緒に関わっても、問題なければ何にも報告がないので。それはそれでいいのかなと思うけど。一生懸命やったけどやった感がない
	担任が日々関わってもらっているので仕方ないけど、結果を教えてもらえた担任もいれば、教えてくれない担任もいる。仕方がないけど気持ちとしては中途半端

Ⅳ. 考 察

特別支援学校養護教諭10名に対して行った「性の健康問題に対する取り組み内容」に関する半構造的面接の結果を以下の5つの項目に整理し考察した。

1. 担任・保護者と繋がるための取り組み

平成21年度施行の学校保健安全法において、養護教諭を中心として関係教職員等と連携した組織的な保健指導の充実を図るという養護教諭の役割が明記された。そして令和5年1月、文部科学省は「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究者会議議論の取りまとめ」¹⁵を通知した。この通知では、養護教諭の資質能力の向上を図る上での課題解決に向けた方向性として、養護教諭に求められる役割（職務の範囲）を明確化した。この研究の主題である「性の健康問題に対する個別の健康相談・保健指導」の職務の位置づけは、養護教諭が校内の中心的な役割を果たすべき「心身の健康課題に関する児童生徒等への健康相談」および「健康相談等を踏まえた保健指導」として明記されている。

養護教諭は個別の保健指導において中心的な役割を果たすために【担任への理解を深め、協働する】ことを行っていた。これは、直接保護者と繋がることができ、児童生徒との関わりが一番多い担任と良好な関係性を築くこと、そして同じ方向性で支援を進めていくことが、児童生徒の性の健康問題の解決に必要であるからである。しかし、“担任の気分を害さないようにやらないといけない。難しいけれど子どものために大事”や“担任の力量によっては思う方向にいかないことがある”というコードのように、養護教諭が困難を感じながらも取り組んでいることがわかる。また、【アンテナを張り、開かれた保健室経営を行う】というカテゴリーに現わされているように、養護教諭は日々の健康観察や担任の相談を受け入れるだけでなく、保護者の要望に応えるための機会を自ら作っていた。これは、担任を介さないと児童生徒や保護者と繋がるのが難しい特別支援学校の養護教諭

ならではのアプローチであろう。秋月¹⁶は特別な支援を要する児童生徒への性に関する指導において養護教諭が抱く困難と課題を明らかにし、その課題の一つとして、本研究と同様に「教員の性に関する指導に対する意識や技術の差」を挙げている。児童生徒の性の問題行動を解決するためには、養護教諭が個別の保健指導における中心的役割であるにも拘わらず保護者や児童生徒と繋がりづらい立場であることについて教職員の理解を得ること、そして、性に関する指導・支援に関して教職員が学ぶ機会を設けることで教員全体の意識やスキルを高めることが必要であろう。

2. 保護者のニーズに沿った取り組み

光武¹⁷は全国の特別支援学校を対象とした性教育の実施状況やニーズについて記した文献調査から、性教育のニーズが教諭や養護教諭より保護者の方が低いことを示し、特別支援学校での性教育の実施を難しくする要因の一つであると示している。また、門下¹⁸は知的障害児・者の性教育に関する研究動向から、学校の性教育に対する保護者の意識について整理している。その中で、学校の性教育に対して反対する保護者は少なかった反面「どちらでもない」「考えたことがない」と回答した保護者も少なくなく、子どもの年齢や特性によって差があることが示唆された。更に、武子¹⁹の知的障害児の保護者に対する性教育へのインタビュー調査では、性教育は個別に行うことが基本であると考えていること、そして、性暴力から身を守るために性行為そのものを教える必要があるが、それが寝た子を起すかもしれないので教えられないというジレンマに苦しんでいる実態が示された。以上の先行研究から、児童生徒に対する保健指導を行う際には、保護者の性教育に対する思いや考えには個人差があることから、指導・支援内容を共通理解し連携して進める必要があるということがわかる。本研究においても同様に、性の健康問題に対する個別の保健指導が必要となった場合、養護教諭が【保護者のニーズに沿った支援を心掛ける】という取り組みをしていたことが明らかになった。保護者の性に関する意識や問題に対する受け止めに把握しながら、保護者が受け入れやすい方法から始めていくというような指導・支援を心掛けていた。また、養護教諭の指導に耳を傾けてもらうためにも、児童生徒との直接の関わりを多く持つように努めていた。これらの取り組みには保護者との信頼関係を形成しようとする意図も汲み取ることができる。このように保護者と信頼関係を形成しながら、そのニーズに沿うような支援は大切である。しかし、保護者のニーズ（客観的な観点から本来あるべきものが不足していたり欠如しているため、それを補填しなければならない「必要」のこと）に対応することが必要なのであり、保護者のダイヤモンド（主観的な観点から自分のしたいことや欲しいものの要求のこと）にただ応じることは、専門的な立場からの指導・支援にはならないことに注意しなければならない。

3. 障害特性に合わせ、継続して支援するための取り組み

思春期には二次性徴が現れ、目に見える体つきや目に見えない思考過程・感情などが急激に変化する。児童生徒がその変化に対応するためには、二次性徴のメカニズムを理解し対処するための新しいスキルを身に着けなければならない。そのためにはいわゆる性に関する指導が必要となる。しかし、知的障害・発達障害のある児童生徒の場合、指導内容を理解することや自分の気持ちや考えを表現することが難しいという特徴、また、こだわりなどの行動特性があるため、本人の理解度や特性に合わせた指導・支援が必要となる²⁰。本研究においても、養護教諭は繰り返しの指示や動画を取り入れた教材の活用など、【知的レベルや特性に合わせた解決方法を模索する】という取り組みをしていた。また、性器いじりなどの性の問題にフォーカスしすぎず、関連する生活上の課題にアプローチするというような【性の問題と関連する課題に対応する】という取り組みをしていた。川上²¹は障害のある子どもの性の問題行動への支援の基本として「性の問題だけにとらわれないこと」の重要性を示し、性の問題行動の背景には認知機能の問題、対人関係や家庭環境の問題などが隠れていることを指摘している。つまり、養護教諭が性の問題行動への指導・支援を行う際には、「障害特性に合わせた指導や性の問題の背景への理解」という障害児教育の基本を理解しておかなければならない。しかし、養護教諭は心身の健康に関する専門性は高いが、障害児教育についてはそうではない。そのため養護教諭は障害児教育の専門家である担任と関係性を構築し、見立てや指導・支援に関する助言を得ながら協働して取り組んでいくことが必要であろう。

伊藤²²は、障害児・者に対する性に関する8つの教育実践に対するコメントの中で、「セクシャリティの学びは積み上げと繰り返しが重要である」と述べている。障害のある児童生徒にとって性に関する適切な行動を身に付けるためには、何度も丁寧な学びを繰り返すことが必要である。本研究においても、継続し繰り返し指導・支援するために【関係者・機関が各々の役割を活かして連携し、継続的に支援する】取り組みがなされていた。指導・支援に関わる保護者や担任だけではなく学外の関係者にも情報を共有して継続支援ができるようし、学内外において心理士等の専門職がそれぞれの専門性を活かした連携をしていた。専門性を活かすという点では、性に関する問題が心身の健康課題であるという理由で、教職員から養護教諭への連携依頼の実態があった。養護教諭が保護者や児童生徒への保健指導を実現するためには、このように教職員と繋がるきっかけが必要である。そのためには、養護教諭が心身の健康課題に対応する専門職であることを学校内外において積極的に示し、開かれた保健室経営の実践に日々取り組むことが必要であろう。

4. 個別の保健指導と集団の保健指導を繋げる取り組み

性に関する教育は発達段階を踏まえ、地域や家庭と連携して行い、集団指導と個別指導を補完して行う必要がある。本研究において、養護教諭の個別の保健指導に焦点を当てて面接をしたところ【集団の保健指導と個別の保健指導を繋げる】という取り組みが明らか

になり、担任の実施している集団指導の内容を対象の児童生徒に合わせる補完的な個別指導を行っていたことがわかった。更に、養護教諭が講師として依頼された保護者主催の座談会（集団の保健指導）の対象者であった保護者が、その出会いをきっかけにして個別の健康相談を求めて保健室に来室していた。また、個別の保健指導がきっかけとなり、系統的に学校全体で行う性教育に発展していた。養護教諭の集団の保健指導は、「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究者会議議論の取りまとめ」²³の職務の範囲において、他の教職員との役割分担の中で適切な役割を果たすものとされている。つまり、養護教諭にとって集団の保健指導は中心的な役割とはされておらず、優先順位として高くない。しかし、集団の保健指導が個別の保健指導に繋がるという点では積極的に取り組んでいく必要があるだろう。そして、集団の保健指導を実施する際には、障害のある児童生徒に対する授業スキルを有している担任の助言をもらいながら、養護教諭自身の専門性を活かした協働的な指導を展開できることが望ましいと考える。

5. 支援・指導の結果が把握しづらいことから生じる課題

性の問題行動に対する個別の保健指導は、児童生徒の知的レベルや特性に合わせ、目標設定をし、計画的に実施するものである。児童生徒にとってよりよい指導とするためには、結果を踏まえて評価・改善することが必要である。しかし、結果については継続的・中心的に児童生徒や保護者と関わる担任が把握していることが多いため、養護教諭は【指導・支援の結果が把握しづらいことによる取り組みの困難さがある】と感じていた。養護教諭は振り返りの重要性を感じてはいるものの、指導・支援の結果の情報が担任から入らないことで評価ができず、更に達成感を持てていなかった。このことは、児童生徒への指導・支援の改善ができないだけでなく、養護教諭の中心的な役割である個別指導へのモチベーションを下げる危険性もある。当該児童生徒だけではなく、日々複数の児童生徒に対応している多忙な担任から頻繁な情報提供を期待するのは困難かもしれない。もちろん、養護教諭自身から担任にアプローチすることはできるが、養護教諭も多忙であるのは変わりない。対策としては、担任の助言を得ながら養護教諭が個別の保健指導計画を立案し、データを担任と共有すると共に、それぞれが定期的に情報を入力するようなシステムを作るということも可能なのではないかと思う。

このような取り組みの困難感を感じる要因としては、前述したように養護教諭が個別の保健指導の中心的役割を担う職務であるということの認識が学校全体で十分にされていないことも影響しているのではないだろうか。養護教諭と教職員がそれぞれの役割を理解し合い、お互いの強みを活かしながら協働していくことが、性の問題行動に対するよりよい指導・支援に繋がるものと考ええる。

V. 結 論

本研究では、知的障害児の性の健康問題に対する養護教諭の取り組みの現状と課題を明

らかにすることを目的とし、首都圏A県公立の特別支援学校養護教諭を対象とした面接調査を行った。その結果、【アンテナを張り、開かれた保健室経営を行う】、【担任への理解を深め、協働する】、【保護者のニーズに沿った支援を心掛ける】、【関係者・関係機関が各々の役割を活かして連携し、継続的に支援する】、【性の問題と関連する課題に対応する】、【知的レベルや特性に合わせた解決方法を模索する】、【集団の保健指導と個別の保健指導を繋げる】、【指導・支援の結果が把握しづらいことによる取り組みの困難さがある】が抽出された。これらの結果から、養護教諭の中心的な役割とされている性の健康問題に対する個別の保健指導を充実させるためには、養護教諭と他教職員がそれぞれの役割を理解し合い、専門性を活かし補い合いながら協働していくことが必要と考えられた。

Ⅵ. 謝 辞

本研究にご協力いただきました特別支援学校養護教諭の皆様にご心より感謝申し上げます。

Ⅶ. 引用・参考文献

- 1 川上ちひろ：発達障害・知的障害のある子どもへの性の支援。性の問題行動へのケア（宮口幸治 編著）。68-70, 東洋館出版, 2019.
- 2 児嶋芳郎, 細渕富夫：知的障害特別支援学校における性教育実践の現状と課題－全国実態調査の結果より－。埼玉大学教育学部教育実践センター紀要, 10：105 - 110, 2011.
- 3 西田充潔, 田実潔：知的障害児に対する性教育について－養護学校における指導の現状と教員養成カリキュラムの必要性の検討－。北星学園大学社会福祉学部北星論集, 42：75-86, 2005.
- 4 井上京子, 菊地圭子, 遠藤恵子：特別支援学校の児童生徒の性に関する調査～教員を対象として～。山形保健医療研究, 13：83-94, 2010.
- 5 原恵美子：知的障害児に対する特別支援学校における性教育実施の状況と教諭と保護者の意識。治療教育学研究, 30：61-69, 2010.
- 6 山田晃生, 水内豊和：特別支援学校における性教育に対する意識と実態－国立大学法人の附属特別支援学校の教諭ならびに養護教諭を対象とした質問紙調査から－。富山大学人間発達科学部紀要, 5(1)：49-64, 2010.
- 7 再掲 6
- 8 中下富子, 佐藤由美, 大野絢子：養護教諭が行う知的障害児の健康課題に対する家族支援。上武大学看護学部紀要, 2 (2)：77-86, 2005.
- 9 長谷高あけみ：特別支援学校における養護教諭による相談活動。鳥取大学教育支援機構教育研究論集, 1：103-108, 2011.
- 10 秋月百合, 上村ともみ, 江口ひかり, 堤葉々子：特別な支援を要する児童生徒への

- 性に関する指導～養護教諭が抱く困難や課題～. 熊本大学教育学部紀要, 64 : 253-258, 2015.
- 11 神奈川県教育委員会：神奈川県の目指すべき教職員像の実現に向けて, https://www.pref.kanagawa.jp/documents/3839/1198528_4312148_misc.pdf, 2017. (検索日：2021年12月20日)
 - 12 谷津裕子：Start Up質的看護研究（第2版）.44-46,学研メディカル秀潤社,2016.
 - 13 グレッグ美鈴：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方第2版 看護研究のエキスパートをめざして（グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江 編著）. 73, 医歯薬出版, 東京, 2016
 - 14 Krippendorff, K. :三上俊治, 椎野信雄, 橋元良明（訳）：メッセージ分析の技法「内容分析」への招待. 81, 勁草書房, 1989.
 - 15 文部科学省：養護教諭及び栄養教諭に求められる役割（職務の範囲）の明確化, https://www.mext.go.jp/content/20230116-mxt_kenshoku-000026992_10.pdf, (検索日：2024年12月27日)
 - 16 再掲 10
 - 17 光武智美：特別支援学校における性教育の実施状況およびニーズについての文献検討－全国を対象にした文献に焦点をあてて－, 学校保健研究, 56 (5) : 365-375, 2014.
 - 18 門下祐子：知的障害児・者の性教育に関する研究動向, 早稲田大学大学院教育学研究科紀要, 27 (1) : 13-24, 2019.
 - 19 武子愛：知的障害の子を持つ保護者／施設職員の性教育の意識－その差異と関係性, 聖徳大学大学院総合福祉研究科研究紀要, 20 : 95-111, 2013.
 - 20 再掲 1
 - 21 川上ちひろ：性の問題行動への支援の基本. 性の問題行動へのケア(宮口幸治 編著). 64-67, 東洋館出版, 2019.
 - 22 伊藤修毅：障害児・者の教育・支援の視点から. セクシャリティ, 90 : 96-97, 2019.
 - 23 再掲 15